

採血を受けられる患者様へ



『採血』は、病気の診断や病状の把握を行うために必要な医療行為です。当院は初診時に感染症の検査、月経周期に沿ったホルモン検査など、医師が必要と判断した場合に採血をお勧めしています。採血は国家資格を有する「臨床検査技師」と「看護師」が担当しております。安全で確実な採血を行うために、『採血』の注意点についてお話しします。

採血を受けられる患者様へのお願い



採血をする前に

ご本人確認

- ・採血検体の取り間違い防止のために、ご自身のお名前を採血管シールにて確認していただいています。

以下の内容に該当する方は採血前にお知らせください

- * 採血時にご気分が悪くなったことがある方
- * 消毒薬（アルコールなど）や手袋（ラテックスなど）にアレルギーをお持ちの方
- * 血液を固まりにくくする薬（ワーファリン・アスピリンなど）を服用中の方や血液が止まりにくい方
- * その他採血に関して、ご希望、ご不安のある方

採血中の注意

以下の内容に該当する方はただちにお知らせください

- * 採血中に手の指先に痛みやしびれがある時
- * 我慢できないような痛みを感じた時（針を刺した時の一瞬「チクッ」とした痛みは通常は心配ありません）
- * 気分が悪くなったり、冷や汗が出たりする時

採血後の注意

採血後は揉まずにしっかりと押さえてください

- ・採血後は血液が止まりにくかったり、青あざができたりすることがあります。（採血管所を揉んでしまうと、症状が悪化します。）
- ・採血後は、針を刺した部分を**5分間以上**揉まずにしっかりと押さえてください。（血液を固まりにくくするお薬を服用している方はさらに長めに押さえてください。）
- ・採血後は、荷物は採血した手とは反対の手で持ってください。採血した手で持つと、内出血するおそれがあります。



採血で起こりうる症状について



●止血困難・皮下出血

採血後の止血が不十分な場合、血液が止まらなかったり、青あざができたりすることがあります。

●アレルギー

採血時の消毒などでかゆみ、発疹が起こることがあります。

●神経損傷

針先が神経に触れたり、損傷したりすると採血時に手指へ広がる痛み、しびれが起こることがあります。

（約1万～10万回採血に1回程度）しびれは数日でなくなります。稀にその後も痛み、しびれが続く場合があります。そのような場合はお知らせください。時に、整形外科で診察していただくことがあります。

●血管迷走神経反応

採血時や採血前後に神経が過敏に反応して、血圧が急激に下がることがあります。低血圧により、めまい、気分不良、意識消失などが起こることがあります。心理的に緊張、不安が強いと起こりやすいとされています。

再採血

針を刺しても採血できない場合や、1回の採血で必要な血液量が採取できない場合には針を刺す場所を変えて再度、採血を行う場合もあることをご了承ください。

疑問点について



詳しい検査項目や結果の解釈などについては担当医にお尋ねください。



止血バンドの貸し出しをしておりますので、ご希望があれば採血室スタッフまでお声かけください。返却は受付にお願いいたします。



《参考文献》

「医療の質・安全学会 パートナーシッププログラム」：<http://qshpsp.ec-net.jp/qsh011.html>

担当：検査部 横田・黒田・名間